

地域子ども・子育て活動支援助成事業 実施報告書（別紙2）

<p>団体名</p>	<p>NPO 法人子育て支えあいネットワーク満</p>
<p>取組の名称</p>	<p>学童保育の活動を通じた地域における子どもの見守り・子育て支援活動</p>
<p>実施場所</p>	<p>学童保育マオポポ kids 近隣公園、近隣施設など</p>
<p>対象地域</p>	<p>川崎市中原区宮内を中心とする地域</p>
<p>対象地域の特色・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・共働き、核家族が多い地域で、新しい住民も多い地域。様々な子育ての情報があふれている中、保護者同士のつながりは希薄になっている。 ・現代の子どもたちは、3間（時間・空間・仲間）がないといわれ、子どもたちはゆっくりと自分を見つめたり、興味・関心を持てるものを見つけたりすることが難しくなっている。 ・子どもが安心して、主体的に遊べる場となる緑地、公園が少ない。 ・コロナ禍、保護者も子どもも勤務環境や、生活様式が大きく変化したことによるストレスを抱えている。
<p>取組の趣旨・目的</p>	<p>共働き・一人親など、昼間、保護者が仕事をしている家庭の児童を預かる学童保育の活動を通して、子育て支援、地域社会全体で子どもを見守る環境づくり、子どもたちが安心して主体的に遊べる環境づくりに取り組む。</p> <p>子どもたちが、さまざまな世代の人と関わりながら、自分を大切に思う気持ちや、自ら学ぶ力を育めるよう支援する。</p>

<p>実施内容・実施スケジュール</p>	<p>1 近隣公園での外遊び活動 日時：学童保育開室日 15時30分頃～17時頃 場所：宮内公園、西宮内公園ほか、近隣公園 参加者：学童保育利用児童、公園利用者 内容：学童保育スタッフによる近隣公園での子どもの遊びの見守り、ゴミ拾いなど。 公園遊びで、スタッフが遊びのきっかけになる道具（大縄跳び、シャボン玉、砂場遊びなど）をもっていき、子どもたちの集団遊びのきっかけを作ったり、主体的に、安全に遊べるように見守った。</p> <p>2 学童保育休室日に、講座・体験教室を開催 (1) 子ども体験教室・親子講座の開催 場所：学童保育マオポポ kids 参加者：地域に住む親子、小学生を中心とした子ども 内容： ①「親子ヨガ～親子で心と体のリフレッシュ～」 7/10（土）13:30～14:30 親子で、様々なポーズを楽しみながら、体の柔軟性、体幹強化、リラックス効果を体験した。 参加人数 親子5組</p> <p>②「子どもダンス教室」8/22（日）13:00～15:30 初級クラスと、経験者限定の中上級クラスに分けて開催。 参加人数：初級 7名、中上級 6名</p> <p>③「親子でZUMBA」11/20（日）13:30～14:30 ラテンを中心とした音楽を楽しみながら、「ダンスフィットネスプログラム」を体験した。 参加人数 大人5名、子ども4名</p> <p>④「ワクワク工作教室」12/12（土）13:30～14:20 ステンドグラス風サンキャッチャーづくりを体験した。 参加人数 4名</p>
----------------------	--

- ⑤ 「いのちのおはなし」 1/16 (土) 13:30~15:00
 読み聞かせや体験ワークを通して、いのちの大切さや、
 自分や周りの人の大切さについて考えるワークショップ
 を行った。
 参加人数 大人 4名、子ども 7名
- (2) 子育て講座の開催
 場所：学童保育マオポポ kids
 対象：子育て中の保護者、子育てに関心のある大人
 講座形式：会場での講義と同時にオンライン配信
- ① 「登園しぶり、登校しぶり～子どもの話の聞き方」
 9/11 (土) 14:00~16:00
 幼稚園・保育園、学校に行きたくない、という子どもに
 どんな言葉をかけてあげたらいいのか。子どもの話の聞
 き方・気持ちの受け止め方について学んだ。
 参加人数 オンライン 9名、会場 4名
- ② 「発達障害とはなんだろう」 10/16 (土) 10:30~12:00
 自分の子どもや、自分がかかわっている子ども、身近な
 人が、発達障害かも、と感じたとき、知っておきたいこ
 と、関わるときに心に留めておくこと、など。事前アン
 ケートで募集した質問を中心に講義。
 参加人数 オンライン 15名
- ③ 「学齢期の子どもの生活の整え方」
 11/27 (土) 14:00~16:00
 講師に、事前に受け付けた質問に答えてもらいながら、
 子どもの生活をどのように見守ればいいのか、学んだ。
 参加人数 オンライン 7名、会場 5名
- ④ 「10歳からの思春期講座～こころとからだの変化～」
 12/11 (土) 14:00~16:00
 10歳ころからのプレ思春期から、思春期真っ最中まで。
 こころとからだの変化について学ぶとともに、グルーブ
 ワークを通して、子どもへの対応の仕方など考えた。
 参加人数 オンライン 6名、会場 3名

	<p>3 地域交流事業</p> <p>学童保育児童が、地域に子どもたちを見守っている様々な施設・人があることを知る機会を作るとともに、多世代交流を行った。</p> <p>①「地域子育て支援センターみやうち」との交流 乳幼児へのプレゼントづくり 7月上旬 ペットボトルを使ったゆらゆらドーム、ガムテープの芯を使った音の出るおもちゃを学童保育児童が手作りし、支援センターの親子にプレゼントした。</p> <p>②「敬老の日 交流」 9月上旬 敬老の日に向けて、学童保育児童がサンクスボードを制作。近隣の高齢者施設2施設を訪問して、プレゼントを届けた。</p> <p>③「ハロウィン 交流」10/19(金) カラーポリ袋などで手作りしたハロウィンの仮装をして、学童児童が近隣の高齢者施設などを訪問・交流。</p> <p>④「柿狩り」10/18(木) 「ミカン狩り」12/6(月) 近隣の高齢者グループリビング敷地内で、柿狩り、ミカン狩りを体験。</p> <p>⑤「節分 交流」2月上旬 近隣高齢者施設と一緒に節分イベント。</p>		
参加者の年代	子ども：主に小学生 大人：主に子育て世代	定員 (1回あたり)	(講座) オンライン30名、 会場10名
実施頻度	外遊び：週4～5回 講座：月1回 地域交流：年6回	活動日数 (年間)	216日
スタッフ体制	<p>常勤職員1名、補助職員5名、学生ボランティア数名</p> <p>1 職員・ボランティア 2～3名</p> <p>2 講師1名、職員2～3名</p> <p>3 職員・ボランティア 2～3名</p>		

<p>連携する団体・ 連携の手法</p>	<p>NPO 法人グループリビング川崎 福祉事業所 デイサービス「TACK」 通所介護施設「こはるびより」 地域子育て支援センターみやうち</p> <p>お互いの活動について情報交換、地域情報などを共有。 合同で消防訓練（年2回）を行い、災害時の対処法などを共有。</p>
<p>取組実施により 見込まれた効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの身近な遊び場である公園で、遊びを見守る大人の存在は、子どもだけでなく地域の大人にとっても安心感を持てる要因の一つになる、と感じた。 今後も、公園での遊びの見守りを通して、地域の子どもたちが安心して主体的に遊べる環境づくりのお手伝いをしていきたい。 ・子育て講座では、子育て中の保護者だけでなく、保育士、教員、学童保育スタッフなど、こどもにかかわる仕事やボランティアをしている方の受講もあり、いろいろな立場からの意見交換ができた。コロナ禍で、なかなか子育ての悩みを共有する場が少なくなっている中、子育てに関することを学ぶだけでなく、悩みを話し、情報交換する機会になった。 ・子ども体験教室・親子講座は、学区の違う子どもたちが集まり、体験・交流できた。また、保護者は、よその子の様子・子育てを見る機会にもなっていた。 ・学童保育の運営を始めて2年目の年で、手探りの中始めた地域交流だったが、高齢者、乳幼児の親子、それぞれの施設と、今後さらに交流を進めていく足掛かりを作ることができた。